

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報

横浜市では、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症する疾患です。抗生剤による治療が有効ですので、速やかに受診しましょう。予防には、患者さんとの濃厚接触をさけて、うがい、手洗いをしましょう。

感染症発生動向調査における A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者発生報告状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

1 月以降増加していましたが、第 11 週をピークに減少に転じました。しかし、第 15 週を境に再び増加に転じ、第 17 週には定点あたり報告数は 2.96 と昨年のピークを上回りました。今後の動向に注意が必要です。

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 13 週	3 月 24 ~ 30 日
第 14 週	3 月 31 ~ 4 月 6 日
第 15 週	4 月 7 ~ 13 日
第 16 週	4 月 14 ~ 20 日
第 17 週	4 月 21 ~ 27 日

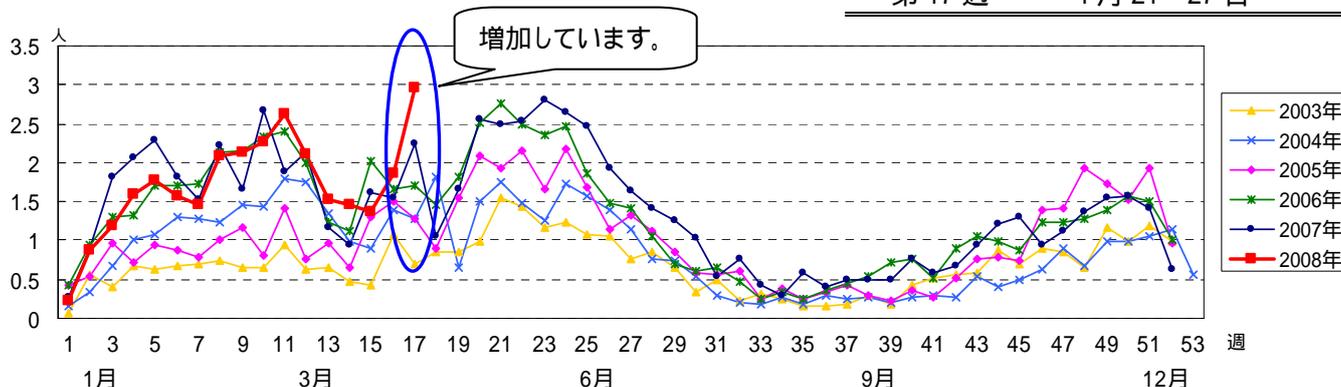


図 1 患者定点医療機関からの A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎定点あたり報告数

(2) 第 13 週から第 17 週までの年齢別患者報告状況

年齢別では、3 歳から 8 歳にかけての報告が多く見られます。

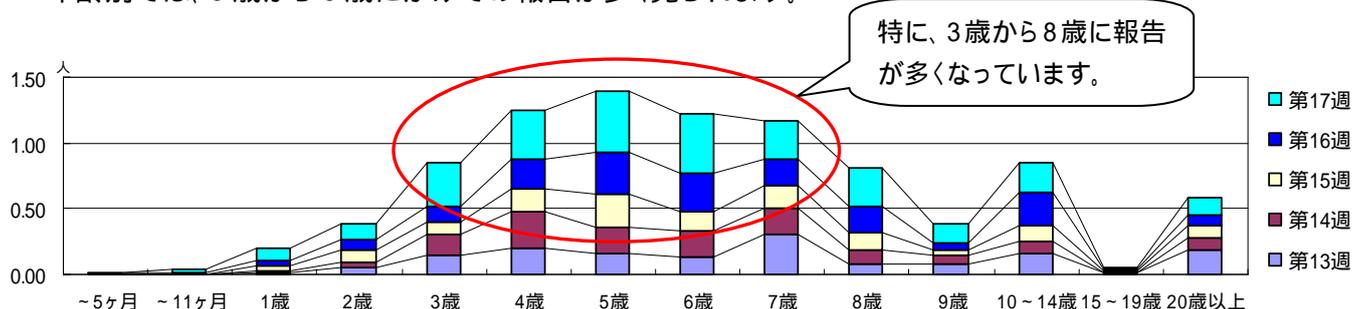


図 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎年齢別定点あたり報告数(第 13 週から第 17 週)

学校保健法での取り扱い

本疾患は学校において予防すべき伝染病の中では、「学校で流行がおこった場合にその流行を防ぐため、必要があれば、学校長が学校医の意見を聞き、第 3 種学校伝染病としての措置を講じることができる疾患」のうち、「条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる伝染病」のひとつとして例示されています。